

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 教職実践演習(幼) ナンバリング：2501	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位 (半期) 演習	担当教員名： 教職担当教員と教科担当 教員がチームで担当 担当形態：オムニバス
科目	教育実践に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職実践演習		
授業の到達目標及びテーマ 1. 子どもに対する使命感・責任感・教育的愛情を持って教育活動にあたる意識や姿勢・態度を身につけることができる。 2. 子どもはもとより、同僚や保護者とも良好な人間関係を構築でき、チームの一員として行動できる社会性とその基本ともいえるコミュニケーション能力を身につけることができる。 3. 保育内容と学級経営に関する知識や技術を具体的事例から追求することにより、地域ニーズも採り入れた保育計画ができ、保育における総合的指導力を身につけることができる。			
授業の概要 保育者(幼稚園教諭)として本学で学習し身につけた知識や技術を統合して、保育現場で活躍できるよう実践的に学ぶ。現役保育者などからの具体的事例をもとに保育者としての職務の具体的内容や保育者としての職業意識を理解し身につけ、現場密着の実践的授業から信頼される保育者としての知識・技術・考え方・実践力など統合した力を身につける。			
授業計画 目的達成のため授業は学生主体で、次の方法で実施する。 1) 授業は学生主体の演習で行う。学生はそれぞれの学問的興味や関心にあわせて、上記目標にあわせた課題を事例研究・フィールド・ワークなどで調査研究をおこなう。 2) それに基づき、グループ討議、ロールプレイやプレゼンテーションを模擬授業の形式で行う。 3) これらを現場の現任教員(保育者や小学校教員など)や保育経験者を招いて、現場の立場から意見やコメントを求める。 4) 保育現場に出向き現場での指導力を身につけるように努める。 第1回：授業オリエンテーション(本授業の目的と方法の説明) 第2回：授業に対する抱負や課題を発表(グループごと) 第3回：グループでの研究テーマと計画案を作成(発表) 第4回：文献・現場調査・教材研究などの詳細計画の作成(発表) 第5回：文献・現場調査または教材研究などの活動① 第6回：文献・現場調査または教材研究などの活動② 第7回：文献・現場調査または教材研究などの活動③ 第8回：グループでの研究発表(他グループとの質疑応答)① 第9回：グループでの研究発表(他グループとの質疑応答)② 第10回：研究成果発表の準備(教材と指導案作成)① 第11回：研究成果発表の準備(教材と指導案作成)② 第12回：研究成果の発表と討議① 第13回：研究成果の発表と討議② 第14回：保育現場に必要な知識と技術とは何か 第15回：幼稚園教諭に必要な要件(資質・技術など)とは何か(討議) 定期試験：全体発表(課題や目標達成度の確認と発表)		授業時間外の学習 (毎回 90 分程度) 保育現場で即戦力として子ども前に立てるよう実践的な態度と技術を身につけるため、毎回の授業では、単位制度の意味をよく理解して、事前学習と事後学習を行うこと。 調査研究などは事前の準備と事後の検証が非常に重要である。 研究成果発表などは、準備とフィードバックなしには効果が期待できない。この準備と検証には時間をかけることが重要である。 毎回の授業の振り返りと次回に向けての事前準備は重要である。学生同士の意見交換なくしては、この授業は成立しないので準備は怠りなく。 課題は担当者からも指示するが、自らが課題を見つけて、課題解決に向かって学習することが重要である。	
授業の方法 グループワークを中心に行う。授業に立体感を持たせるために教室を離れてフィールドでも行うことがある。学生や教師との意見交換を中心に進めるが、保育・教育現場を見学し、調査をするほか、外部の現役保育者を授業に招聘するなど現場に密着した授業を展開する。毎回の授業終了時に学習内容を振り返り適時フィードバックを行う。			
テキスト 授業において指示する。			
参考書・参考資料等 適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業参画度(50%)、マイクロ・ティーチングと準備資料等(30%)、発表(20%)			
履修上の注意 学生主体の演習で行うので、学生はそれぞれの学問的興味や関心にもとづき、目標設定をし、事例研究・フィールドワークなどの調査・研究を通して、教育現場での指導力を身につけるよう努めること。			
実務経験の有無	無	実務経験	
実務経験を活かした教育内容			